

労働者側ハ罷業ヲ避ケ飽迄懲罰主義ヲ以テ進ミ平日通就業ス  
ハ會社側

會社側ハ交渉カ決裂シ罷業ニ入ルニ目下不尻ニテ寧ク休業シ  
利益トスル状態ナルヲ以テ比較的強硬ニ出テタリ  
ハ交渉状況

(1) 四月十九日木ノ下樓上ニ於テ事業主側木下箱雄、組合大隈  
哲夫外二名、船夫代表広瀬宣吉外三名會見交渉セルカ整船  
ノ多数問題ニ觸レテ解雇手當額ニツキ折衝セシカ一方ハ百  
五十円一方ハ四十圓ヲ主張シテ纏ラセシテ一応打切り

(2) 四月二十日雨ニ會見一方ハ百三十円一方ハ六十円ニ各譲歩  
シタルニ双方共夫レ以上ノ譲歩ヲ不可能トナセリ 且ツ整  
理人負ニ就テモ會社側ハ名組合側五名ヲ固持シテ譲ラヌ不  
調ニ終ル

(3) 四月二十三日同様ノ會見ヲ行ヒタルカ労働者側ハ手當シ百

円ニ譲歩シ各船夫ノ積立金三分ノ一宛ノ船夫及整船六隻ヲ  
兼認セルカ會社側ハ手當ハ六十円トシ積立金ハ船夫ノヘキ  
性質ノモノニ非ス且ツ整船ハ七隻ト主張シ

(4) 四月廿四日前記ノ親觸シテ更ニ組合代表岡家博ヲ加ヘテ會  
見シ労働者側ハ前交渉ノ積立金ノ払戻ヲ撤回シ解雇手當ハ  
仕込金ノ二ヶ月分即チ百七十圓ト或ト鋭列トシテ解雇者一  
名ニツキ十圓宛ノ支給ヲ要求、會社側ハ之レシテ認トシ總テ  
手當ニ八十圓ト主張シテ妥限ナラス

(5) 四月二十六日同様ノ親觸シニテ最後の交渉ニ入り決裂ヲ予  
想セラレタルカ遂ニ別記条件ノ下ニ同席解決ス

右及申(通)報便也